

## 通知表の見方－よりよい成長を期待して－ 上柴中

通知表は、お子さまの学習の達成状況や学校での生活、活動の様子をお知らせするものです。ぜひ、学校での評価とあわせて家庭での生活、学習もふり返りながら、お子さまのよいところを見つけ「夢・志の実現」にむけた激励の言葉にしていなければ幸いです。

### 1 各教科の学習の記録

ここには教科ごとに観点と評価と評定の欄があります。

#### (1) 観点とは

学習指導要領に示されている「各教科の目標」の実現状況を評価するめあてであり、教科ごとに3つあります。観点は次の3つです。

観点	各観点の評価の仕方
知識・技能	各教科等における学習の過程を過した知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかを評価します。
思考・判断・表現	各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価します。
主体的に学習に取り組む態度	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。

#### (2) 評価とは

「各教科の目標」に照らし合わせて、その実現状況をそれぞれの観点ごとに下のように「A」「B」「C」の3段階で評価したものを「観点別学習状況の評価」（以下、「観点別評価」）といいます。これはいわば一人一人が目標にどれだけ近づいたかを分析的に捉える達成度の評価です。ここに記入されている評価は、お子さまが各学期（期間）に学習した単元や題材ごとに、定期テストや作品、パフォーマンス課題（「〇〇ができる」ことを確認するための課題）などを評価した結果を総合したものです。

A…十分満足できると判断されるもの

B…おおむね満足できると判断されるもの

C…努力を要すると判断されるもの

「観点別評価」を行うに当たって、その具体的な場面や方法は教科によって異なりますが、各教科で作成している観点別の評価基準に基づいて、学習状況进行评估します。

○ 発表 ○ ノート ○ 学習プリント ○ 宿題 ○ レポート ○ 提出物 ○ 作品 ○ 討論  
 ○ スピーチ ○ 感想文 ○ 鑑賞カード ○ 観察や実験の報告書 ○ 自己評価や相互評価  
 ○ 実技テストやパフォーマンス課題 ○ 小テスト ○ ポートフォリオ ○ 話合い など

このように日々の授業での学習状況が観点別評価につながります。

【学期末に観点別評価を総括するときの考え方】

観点別評価の結果である A、B、C を数値に置き換えて、A=3 点、B=2 点、C=1 点と考えます。  
 ※教科によっては、もう少し細かく数値を設定する場合があります。学期末に観点別評価を総括する際に、結果を B とする範囲を  $[2.5 \geq \text{平均値} \geq 1.5]$  として、B 以上を A、B 以下を C とします。

評価の例	単元 1	単元 2	単元 3	合計	平均値	学期末の評価
知識・技能	A	A	A	9 点	3.0	A
思考・判断・表現	B	B	A	7 点	2.3	B
主体的に学習に取り組む態度	A	A	B	8 点	2.7	A

(3) 評定とは

「観点別評価」を総括して 5 段階の数値で表したものです。評定は下のようになります。

- 5…十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの
- 4…十分満足できると判断されるもの十分満足できると判断されるもの
- 3…おおむね満足できると判断されるもの
- 2…努力を要すると判断されるもの
- 1…一層努力を要すると判断されるもの

【評定を出すときの考え方】

各教科等の観点別評価の結果をもとに総括的に評定を出します。評定は、原則として観点別評価を、A…3 点、B…2 点、C…1 点 としたうえで、合計の点数を出して算出します。

観点別評価の合計点	評定	3 観点の評価の組み合わせ例
9.0 点以上 ～ 9.0 点以下	5	AAA
8.0 点以上 ～ 9.0 点未満	4	AAB
5.0 点以上 ～ 8.0 点未満	3	評定 5、4、2、1 以外の評価の組み合わせ全て
4.0 点以上 ～ 5.0 点未満	2	BCC
4.0 点未満	1	CCC

【学期ごとの評定と、学年の総括的な評定を出すときの考え方】

学期ごとに**観点別評価をもとに評定を算出します。**

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評定
1 学期	A	A	B	4
2 学期	B	A	A	4
3 学期	A	B	A	4
学年末	学年末評価【 】	学年末評価【 】	学年末評価【 】	学年評定【 】

各学期とも観点別評価の組み合わせは「AAB」なので、前出の【評定を出すときの考え方】に基づいて、学期それぞれの評定は「4」となります。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評定
1 学期	A	A	B	4
2 学期	B	A	A	4
3 学期	A	B	A	4
学年末	学年末評価【A】	学年末評価【 】	学年末評価【 】	学年評定【 】

学年の総合的な評定（以下、「学年評定」）を出すときには、まず観点別評価ごとに通年の評価を算出します。考え方は、前出の【学期末に観点別評価を総括するときの考え方】と同様です。表では、1～3 学期の「知識・理解」の観点別評価の組み合わせが、「ABA」なので、平均値は「2.7」となり、学年評定を算出するための学年を通した観点別評価は「A」となります。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評定
1 学期	A	A	B	4
2 学期	B	A	A	4
3 学期	A	B	A	4
学年末	学年末評価【A】	学年末評価【A】	学年末評価【A】	学年評定【 】

「思考・判断・表現」も、「主体的に学習に取り組む態度」も、観点別評価の組み合わせがそれぞれ「AAB」と「BBA」なので、平均値は「2.7」となり、学年評定を算出するための学年を通した観点別評価は「A」となります。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評定
1 学期	A	A	B	4
2 学期	B	A	A	4
3 学期	A	B	A	4
学年末	学年末評価【A】	学年末評価【A】	学年末評価【A】	学年評定【5】

すると、学年末評価がすべての観点別評価で「A」となり、観点別評価の組み合わせが「AAA」となるので、1～3 学期の評定が「4」であったにもかかわらず、学年評定は「5」になります。一見すると矛盾しているかのようにですが、**観点別評価から評定を算出することが文部科学省から示されている**ので、これは正しい評価、評定の結果となります。

#### （４）評価の時期

9 教科と総合的な学習の時間、および道徳の評価は学期ごとに出します。なお、全学年とも 3 学期の通知表で学年評定もあわせて出します。

※学期ごとに印刷したものをファイルに入れていきますので通知表は、2、3 学期の初めに必ず担任に戻してください。

## 2 「総合的な学習の時間」の記録

総合的な学習の時間の欄はお子さまの総合的な学習の時間への取組を記述式で評価しています。上柴中学校の「総合的な学習の時間」では次のようなねらいをもとに、それぞれの学習過程における評価の観点をもって指導しています。なお、通知表には学期ごとに、テーマ → 課題設定 → 課題追究 → 発表 → まとめ の各段階の学習について担任（担当教師）より記述式で評価が出されます。

「総合的な学習の時間」のねらい

- (1) 探究する力…自分で課題を見つけ、自分で調べ、自分で考え、自分で解決していく力を育てる。
- (2) 人とふれあう力…社会で共に生活している地域の人やさまざまな人々と交流し、情報を得たり、考え方や生き方を学んだりする力を育てる。
- (3) 表現する力…自分の考えや発見を、多くの人にわかりやすく表現し情報を発信する力を育てる。

学習過程	観 点 例
課題設定	○関心・意欲を持って課題を探しているか。○課題を決めるまでに、広く情報を収集して、イメージを広げているか。○体験をもとに考え方を広げたり深めたりしているか。○課題を絞り込むことができるか。○自分で追究できる課題を見つけることができるか。
課題追究	○自分なりに活動の見通しをもつことができるか。○探究活動の計画を立てることができるか。○課題について情報を収集したり整理したりすることができるか。○情報を分析したり解釈したりして自分なりに課題を解決しようとしているか。○試行錯誤しながら計画を修正して課題を追究できるか。○情報収集に必要なスキルやマナーを身に付けることができるか。
発表	○自分の考えや調べて発見したことをまとめることができるか。○表現方法やコミュニケーションの方法を理解し、わかりやすく自分の考えを伝えようとしているか。○機器の利用や発表方法など、発表を工夫することができるか。○意見や感想を聞いて新たに考えを広げることができるか。○聞き手として意見や質問を述べたり、発表者への評価や感想をもったりすることができるか。
まとめ	○活動を振り返り、自己評価することができるか。○学習を通して自己の生き方やあり方を考えることができるか。○役立つ情報を発信したり、自分にできることを行動化したりすることができるか。○これからの学習につなげることができるか。

### 3 行動の記録

学習の成果と並んで、お子さまの姿を客観的に理解するためには、生活面での様子をよく理解することがきわめて大切です。学習はよく頑張るが、生活面ではルーズだというのは問題があります。学習面だけでなく生活面でもしっかりとした行動をして、調和のとれた人間に成長できるように「行動の記録」も活用していただきたいと思います。

項目	評価の観点（具体例）
基本的な生活習慣	時間を守る。きちんとした身だしなみをする。ルールを守り、規律正しい生活をする。正しい言葉づかいやあいさつをする。
健康・体力の向上	心身の健康の大切さを理解し安全な行動や規律正しい生活をする。積極的に運動に親しみ体力の向上を図り、明るい生活を送る。
自主・自律	自分の意見を持ち積極的に発言する。自らの「夢・志の実現」に主体的に進める。困難な場面でも解決に向けて努力する。何をすべきか何が正しいか判断して行動する。
責任感	自分の言動に責任をもち周りから信頼される。役割、分担された仕事などを誠意をもってねばり強くやり遂げる。約束や決めたことを守ろうと努力する。

創意工夫	問題解決の場面などで人と異なった発想で解決の方法を考えることができる。学習の方法を工夫したり各種行事において積極的に自分のアイデアを生かそうとしたりできる。
思いやり ・協力	だれとでも親しく接する。相手の立場に立って考え、思いやりのある行動ができる。自分の意見ははっきり述べるが相手の立場を尊重して発言できる。集団の目標達成のために互いに信頼し合い、役割を自覚して力を出し合うことができる。
生命尊重 ・自然愛 護	生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。動植物の飼育を行い生命を育てていこうとする。自然をよく理解し、それらを守るために環境保護活動などにも進んで参加する。
勤労 ・奉仕	当番活動等を率先して行うことができ、他人のいやがるような仕事でも率先して引き受け最後までやり遂げる。学校、地域などのボランティア活動（清掃・資源回収等）に積極的に取り組む。
公正 ・公平	物事の善悪を正しく判断し、誘惑に負けることなく公正な態度をとることができる。自分の好き嫌いにとらわれることなく、だれにでも公平な態度で接することができる。
公共心 ・公德心	きまりの意義を理解して守る。公共物を大切に使う。公共の場でマナーを守り、迷惑をかける。我が国の文化や伝統を大切に、他国の文化にも理解を示し国際的な視野で公共のために役立つことに参加する。

#### 4 特別活動の記録

学級活動、生徒会活動、学校行事、その他の活動における活動状況が記録してあります。部活動や表彰の実績についてもこの欄に記録します。

#### 5 通信欄(「所見」「家庭から学校へ」)

所見欄だけでは生徒の様子をお伝えすることが難しいことや、通知表を渡す直前に面談の時間を確保できることなどから、1学期と2学期の通知表の所見をなくします。生徒の様子は夏季休業中や2学期の教育相談において口頭でお伝えします。3学期のみ年間を通じた生徒の様子を所見欄でお伝えします。

#### 6 出欠の記録

出欠席・遅刻・早退の様子は、お子さまを知る大切な要素です。この欄にも必ず目を通してください。  
※今年度は、「出席停止」の中には、新型コロナウイルス関連によるものもあります。

#### 7 道徳の記録

道徳の時間の欄はお子さまの道徳の時間への取組を記述式で評価しています。上柴中学校の道徳では次のようなねらいをもとに、それぞれの学習過程における評価の観点をもって指導しています。

道徳教育のねらいは、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることです。

なお、通知表には学期ごとに、学習状況の様子→道徳にかかる具体的な成長の様子について担任より記述式で評価が出されます。